

演 題 名 3度の脳梗塞乗り越え、食べる喜びから、活動意欲向上を見出した症例

施 設 名 ケアセンターけやき 訪問看護ステーション

発 表 者 ○松崎 裕統(言語聴覚士)

概 要

【はじめに】

3度の脳梗塞から意欲が低下した方に、訪問STが関わりを持つことで、他部署と連携した介入により「ホノルルマラソンコースをジョギングしたい。」という希望が聞かれ、意欲が向上した症例を経験をしたので報告します。

【症例紹介】

70代、男性、要介護3、2021年12月左放線冠に梗塞を再発し、近隣大学病院入院。2022年1月竹川病院転院。ご本人・ご家族の早期退院希望により、同年2月自宅退院。退院と同時期に訪問STと通所リハビリの利用開始。

3度の梗塞により、今後の生活に不安と意欲低下のコメントが聞かれました。

嚥下機能は偽性球麻痺と推測。筋力・感覚低下や姿勢の影響により咽頭残留を認めました。MASA:149/200点（中等度）。誤嚥重症度：軽度。食形態はゼリー粥、ミキサー食、水分摂取は濃いトロミ。構音障害はときどきわからない語がある程度。コミュニケーションは聞き取りにくい語があることや高次脳機能障害により一部繰り返しや要約が必要でしたが問題なく可能。FIM：101/126点。

【治療（ケア）計画】

訪問STでの目標食形態は普通食に、水分摂取はトロミを終了することとし、水分・栄養摂取や運動習慣指導と再発防止の教育、食形態向上のための摂食嚥下療法と指導を行いました。通所リハでは目標を歩行能力向上による耐久性向上と転倒予防に努めました。

【経過】

訪問開始時、今後の生活不安の訴えが強く食べる意欲も低下していました。通所リハでは運動は行っていたが嚥下機能低下により十分な栄養が得られず気力がなく活動意欲も低下している状態でした。訪問ST開始約1ヵ月後にはゼリー粥が軟飯に、ミキサー食が軟食1口大に、水分も濃いトロミから薄いトロミに変更され、食への意欲が向上したことで通所リハと連携を図り、水分形態をお茶ゼリーへの変更、食事姿勢のポジショニングを伝えました。また、嚥下機能の更なる向上を目的に、頸部の筋緊張を緩和するように連携を図りました。その結果、パンの摂食も可能になり、食事量も増え、活動量の向上に繋がりました。

【結果】

食事形態の改善に伴い食事量と活動量も増え、以前行っていた散歩も再開するようになった。開始時に聞かれた不安に対するコメントも減少し、本人様からは「これからも、けやきさんのお世話になりながら、早く元気になって、ホノルルマラソンコースをジョギングしたいです。」と意欲的な発言も聞かれるようになりました。

【考察】

本症例は、複数回の梗塞による制約を抱えながら、訪問STと通所リハビリでの双方においてのスタッフ全体での関わりにより、愛情を持って親身な対応を心掛けたことで、ご本人様の意欲を引き出し、「ホノルルマラソンコースをジョギングしたい。」という意欲的な発言も聞かれるようになりました。Our Teamで望んだことが成功の要因と実感しています。